

## 会 議 録

会議の名称	令和元年度第2回まち・ひと・しごと創生懇談会
開催日時	令和元年11月6日(水) 午前・午後1時30分から 午前・午後3時30分まで
開催場所	本庄市役所 大会議室
出席者	(委員) 荒井 克巳 委員、明堂 純子 委員、田邊 晶子 委員、 間庭 英雄 委員、福島 賢俊 委員、谷田 裕之 委員、 高橋 博志 委員、江原 貞治 委員、稲継 裕昭 委員、 宮下 哲治 委員、森久保 晶彦 委員、 戸谷 清一 委員 (事務局) 山下部企画財政部長、中山総務部長、 反町市民生活部長、原福祉部長、岡野保健部長、 木村経済環境部長、浜谷都市整備部長、 高橋教育委員会事務局長、福島上下水道部長 企画課：前川課長、齋藤課長補佐、千田主査、 渡邊主事
欠席者	(委員) 田中 輝好 委員、清水 義雄 委員、戸谷 正夫 委員、 小林 由美 委員、坂本 雄平 委員、富沢 峰雄 委員、 金井 幹雄 委員、茂木 通信 委員、安部 逸郎 委員、 岡田 正則 委員、吉田 永子 委員、新船 直人 委員 (事務局) 大屋議会事務局長
議題 (次第)	1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 (1) 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に ついて 4. 閉会
配付資料	令和元年度第2回本庄市まち・ひと・しごと創生懇談会 次第 資料1 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案) 資料2 本庄市まち・ひと・しごと創生ワークショップに ついて 統計資料 合計特殊出生率について
その他特記事項	
主管課	企画財政部企画課

会議の経過	
発言者	発言内容・決定事項等
1. 開会	
事務局	ただいまより、令和元年度第2回本庄市まち・ひと・しごと創生懇談会を開催させていただきます。
2. あいさつ	
座長	<p>前回の懇談会の最後に、要因分析を行うこと、ワークショップで出た様々な意見を可能な限り反映すること等が、当日の意見のまとめであったことから、そのように発言したところでございます。</p> <p>今日は、前回、次期総合戦略の策定に向けた基本的考え方について色々ご意見頂いたところを反映する形で素案を作りましたので、この素案について皆様のご意見を頂きまして、今年度終わりの3月頃の確定に向けて、市の方で取組を行うきっかけになればと思っております。</p> <p>活発なご意見をどうぞ宜しくお願い致します。</p>
3. 議事 (1) 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について	
事務局説明	
座長	ご説明ありがとうございました。次期総合戦略(素案)の各事業等の内容についてご意見等を頂きたいと思っております。
委員	<p>先日、本庄まつりがありました。その時つくづく思ったのは、中心市街地の疲弊が一段と進んでしまったということです。市街地が郊外へどんどん広がっています。早稲田地域は区画整理をしたので、それはそれで良いのですが、面が広がってしまうと、公共投資、上下水道などの様々な整備が、長期的に考えると、また次の世代への投資として増えてしまうこととなります。人がまばらに住むと、そこにまた投資をしなければならない。今、コンパクトシティといわれています。本庄市も、中心市街地の空き家対策等に対して公金を入れ、そこに集中的に人に住んで頂くことが、まちの活性、中心市街地を守ることになるのではないかと考えています。空き家になってしまって、道路等の様々な関係で再建築できない状況を放置しておくことは、ある意味行政の怠慢になってしまうのではないかと考えています。</p> <p>早稲田地域に対しては集中的に投資をしました。以前、市長も「次は中心市街地ですよ」とおっしゃっていましたが、そこからの効果があまり見えてきていません。深谷市では中心市街地の区</p>

	<p>画整理を行う際、相当なお金をかけました。当時、私たちは「そんなにお金をかけてどうするのか？」と疑問に思いましたが、今となっては本庄市も市街地の面整備に知恵を出してやって頂きたいと思っています。中心市街地を何とかしないと、本庄市はドーナツみたいに周りだけは元気で中は全然元気じゃないという状況になり、様々なものが守れなくなってきてしまうと思います。是非、空き家対策と絡めてやって頂きたいと思っています。</p> <p>また、ポケットパークについて、良いところもありますが草が伸びているところもあり、一種の逃げになっているのではないかと考えています。もう少し工夫と知恵が必要だと思います。</p>
座長	<p>基本戦略3「まち」の中で、22ページ(27)空き家対策等の推進についての貴重なご意見を頂きました。現在KPIが、除去家屋数10件→58件となっていますが、何か他のKPIとかは有り得るのでしょうか。</p>
都市整備部長	<p>ご指摘頂いた点につきまして、今どのように進めているのかを説明させていただきます。</p> <p>1点目、本庄の中心市街地の活性化については課題であると感じています。今年度から、本庄駅北口地区についてどういう形で整備を進めたら良いかという基本計画を定めはじめております。その中で、空き家の問題、狭あい道路の問題、そこに住んでいる方の元気を取り戻すような施策などを総合的に考えているところでございまして、今年、来年で具体的に何らかの策を検討したいと考えておりますので、ご理解頂ければと思います。</p> <p>また、ポケットパークについては、まちなかの元気を取り戻すため、空き家を除却するための施策の一つだと思っています。これは、空き家を撤去して頂くという部分では一定の効果はあったと考えますが、空き地になったところの管理、そのあとについてどうするのかといった部分は考えていかななくてはならないと思っています。先ほど申し上げました基本計画の中で、空き家についてどのように対処しなければならないのかという計画も立てております。その中で議論を深め、具体的な策を検討していきたいと思っています。</p>
委員	<p>旧児玉町の状況については細かいことは分かりませんが、こちらも同じ状況であると思っていますので、併せてお願いできればと思います。</p> <p>また、以前から思っていることなのですが、中心市街地の道路がとても狭い状況です。銀座通りは少し広がったのですが、道路が全部抜けなければ買わないということではなく、虫食い状態で</p>

	<p>も良いので用地買収を行ってもらいたいと思います。接道の問題などはあるかと思いますが、そういったところに次の世代が再び家を建ててしまうと、道路の幅がまた先に延びてしまうと思いますので、柔軟な対応をお願いしたいと思います。</p>
都市整備部長	<p>制度としては受け身になってしまうのですが、道幅が4mに広がる線を設けて、建て替える際にはそこまでセットバックして頂くという制度があります。一方で、土地をやみくもに買収していくということも適切ではないのではないかと思いますので、計画を立て、全体を俯瞰した中で検討していきたいと思います。</p>
座長	<p>KPIの基準値10件、目標値58件という数字はどこから出てきたものなのでしょうか。</p>
都市整備部長	<p>確認のうえ、後ほど回答させていただきます。</p>
委員	<p>18ページ(15)の休日・夜間診療については、先日の子ども・子育て会議でも話題に出たのですが、実際には本庄市内で診てもらえないことがほとんどで、多くの子育て世代の方がとても困っている状況です。休日・夜間に他市町村、他県に回されることが多く、これが、本庄市で子育てをするうえで大きなネックになっていることは事実だと思います。本庄市にも医師はたくさんいると思うので、休日・夜間に必ず小児も診てもらえる体制を作って頂ければと思います。</p> <p>(16)の健康相談ダイヤルが本庄市にあることはとても良いと思うのですが、これを全く周知されていないと思っています。何番にかければいいのか、市の職員さえも即答できなかったもので、私たちも全くわからない状況です。以前は消防署にかけると当番医を教えてくれたそうですが、今は緊急でない場合だと教えてもらえないそうです。この健康相談ダイヤルは24時間利用できるとのことですので、出生届を出した際や母子手帳を交付した際などに一言を添えて頂いて、市役所の方から市民に声をかけてもらいたいと思います。そうでないと、たくさんもらった資料の中に埋もれてしまって、何も分からないという方が多いと思うので、声かけも含め、夜間休日診療の充実をお願いしたいと思います。</p> <p>19ページ(19)で、小学生学習支援事業が新規事業となっていますが、これは子ども大学の中での学習支援という意味なののでしょうか。また、20ページ(22)にも放課後支援事業がありますが、本庄市では貧困家庭に限って行っているのは知っているのですが、一般家庭に対してもそれが始まったのでしょうか。他の市町村では、一般家庭のお子さんでも土曜日や放課後の支援事業が行われていると思います。</p>

	<p>20ページ(21)の英語検定料補助事業はとても有難いことだと思います。これが始まることによって、今後必要になる英語の力が付くと思うので、とても素晴らしいことだと思います。</p> <p>21ページ(23)の市民提案事業とは、具体的にどのようなことなのか、どんなことを考えているのか、教えて頂きたいと思います。</p> <p>加えて、27ページ(41)のUIJターンの促進について、令和4年の目標値が10人とありますが、今行っている制度なのか、まだ行っていないと令和2年から始まる制度なのかを聞きたいと思います。本庄市でも、相当の若者が、大学進学や就職等で一度東京に出て再び戻ってくるケースが多いと思います。本庄の企業に就職し、本庄に住む方に対しては、住居の提供や補助金を出すなど、そういったことがとても有効だと思います。ただ、それを知らずに恩恵を受けられない方も多いと思うので、こういった事は大きくSNS等を使って若者に宣伝していくと良いと思います。</p>
座長	<p>色々ご意見ありがとうございました。いくつか共通していたことは、情報発信が弱いという点だと思います。これは、ワークショップの中でも挙がっていたことだと思います。</p>
保健部長	<p>休日・夜間の診療体制、相談体制についてですが、ご意見頂きました通り、実際に夜間につきましては、現在は木曜日の夜間のみということで、それ以外の平日の夜間に関しましては、診療の体制がとれていないのが現状です。小児科専門医の配置ということは難しいかもしれませんが、小児も診療できる先生を含めての体制づくりについては、今後も続けて参りたいと思います。</p> <p>また、周知に関してですが、新たに出産される方、妊娠された方も含めて全戸訪問、またはその後の健診等がありますので、ほぼ100%周知は図れていると思っています。しかし、既にお子さんが大きくなられている方や、転入されてきた方等への周知が不十分であるという点がありますので、子育て支援課窓口等でのチラシの配布など、少しずつですが、対応を工夫させて頂いているところです。</p>
教育委員会事務局長	<p>(19)の小学生学習支援事業は新規事業ということで、来年度以降の実施を計画しているところです。具体的には、市内の小学生を対象として、土曜日に公民館等を利用して月2回程度、地域の方に先生となって頂いて学習の支援を行うものです。子どもたちの居場所づくりを確保するというところで、実施したいと考えております。</p>

	<p>(22)の放課後支援事業につきましては、中学生を対象として、既に行っている事業でございます。家庭での学習習慣が十分に身につけていない子どもたちや、意欲はあるが学習に不安を感じている子どもたちに対し、こちらも地域の方に先生になって頂いて、放課後や休みの日に、7月から2月の年間30回程度、それぞれの中学校で実施しているものです。</p>
市民生活部長	<p>(23)の市民提案事業について説明させていただきます。まちづくりの推進にあたっては市民協働が欠かせないことから、これまでも様々な市民協働事業を展開してきたところです。今回は新たな取組として、市民提案事業について、どのようなものとするか、負担の割合なども含めて検討していくことを考えております。これは、総合振興計画にも載せている事業ですので、積極的に取り組んでいこうと考えております。具体的にはまだ決まっておきませんが、今後のルールづくりが、まずは来年度の取組になってくるものと思っております。</p>
企画財政部長	<p>(41)のUIJターンの促進について説明させていただきます。本庄市は条件不利地域には思えないのですが、一部山村地域を抱えておりますので、本庄市全体が条件不利地域に指定されていません。こうしたことから、国の制度の地方創生推進事業を使いまして、事業を推進していくことを考えております。具体的には、東京23区にお勤めの方やお住まいの方が、本庄市で仕事に就き、住んで頂く場合に支援していくものです。この事業のPRにつきましては国を挙げて東京都内などでPRしています。なお、今年度からスタートしておりますが、現時点では、この制度を使っでの定住はございません。</p> <p>また、本庄市独自の転入・移住に関する支援につきましては、(40)の移住・定住に向けた住宅支援として、住まいる応援金という制度を設けています。これは、本庄市内に40才以下の方が転入して住居を構えて頂いた場合に応援金を支給するもので、定住を促進するということで応援させて頂いております。これにより、20～39才までの転入者数を1,500人位まで引き上げていきたいと考えています。本庄市の場合、一旦転出したのち、30代位の方がまた戻って来られるケースが多い傾向がありますので、そこを押し上げようということで、このような施策に取り組んでいます。これは既に行っておりまして、平成30年度においては、約150件程度の申請がありました。本市へ引っ越してきたカップルの方が、第2子・第3子を出産しているケースも出てきています。これについては、金融機関、住宅メーカー、不動産</p>

	業者などにもご協力頂きながらPRを進めていきたいと考えています。
委員	これは東京都、神奈川県、千葉県からの通勤者も含むということでしょうか。
企画財政部長	そうです。東京23区に通勤をしている方が対象となりますが、埼玉県内から東京23区に通勤している方は対象外となります。
委員	放課後支援事業は本庄市内の全ての中学校が年30回行っているのでしょうか。また、夏休みに行っているのは分かっているのですが、それ以外の普段の放課後等も行っているのでしょうか。私が知る限りでは、対象者を学校が指名して行っている場合が多いと思うのですが、希望する子みんなが参加できる体制が整っているのか、または、学校によって体制が異なるのか、放課後の支援事業はとても重要になってくると思うので、後で良いので、また教えてください。
座長	では、その点につきましては後ほどお願い致します。 一点気になったのは、(40)のKPIについて基準値よりも目標値の方が下に設定されているのですが、これはどうしてですか。1,500人というのは現総合戦略の目標値でもあるのですが、現状が1,664人まで上がっているのにどうしてでしょうか。
企画財政部長	ここの数値については修正させていただきます。申し訳ございませんでした。転出が多くなっている状況であることから、それを減らすことを目標としたところですが、表現の方法が誤っておりますので、そこも含めて修正させていただきます。
座長	もう1点気になったのが、21ページ(23)市民協働の推進のところですが、市民提案事業を始めるということで、そのKPIが法人登録数となっていますが、そのつながりが良く分からなかったのですが、もう一度ご説明頂けますでしょうか。
市民生活部長	市民提案事業のKPIにつきまして、対象となるものは、市民団体やNPO、任意団体等の様々な団体があると思いますが、NPO法人の育成等の観点もあることから、NPO法人登録数をKPIとして設定しました。
委員	ワークショップに参加して感じたことは、出会いから始まって、出産、育児、教育、就労の流れの中で、全てが本庄市内で賄える環境が大事であるということです。保育園で仕事をする中で一番多く意見として聞くのが、市外に出ないと出産することができない点です。この点について一番不安を持っている母親が多いと感じています。市内で、子育ての一番初めの段階である出産をカバーできる体制にしていけたら良いと思いました。

	<p>また、小学校に行く機会があり、行くたびにクラスが減るなど、毎年、空き教室がどんどん増えているという実感があります。ワークショップの中でも、具体的に、空き教室を学童として使ったら良いのではないかな等の様々な意見がありました。旭小学校など本庄市北部の小学校では、空き教室をどのような方向性で活用していくのか検討する必要があるのではないかと思います。</p> <p>さらに、まちづくりの部分に関して、今回、台風15号と19号があり、洪水の心配がありました。来年、再来年もそのような心配がある中で、まちづくりとして、治水の観点を含めた方が良いのではないかと思います。</p>
座長	<p>市内に産科がない、出産できる病院がないということについて、この総合戦略の中に盛り込むのかどうかという議論が出てくると思います。空き教室については「学校・教育」のところで、入れるかどうかになると思います。また、治水の部分は国や県の事業になってくるので、本庄市の総合戦略の中に入れるかどうかという観点が出てくるとは思います。いかがでしょうか。</p>
保健部長	<p>本庄市では、出産できる医院が少なくなっているのが現状です。安心して出産できる環境ということは、とても大切だと思いますので、どのような形で市としてアプローチできるか考えていかなければならないと思っていますのでございます。</p>
教育委員会事務局長	<p>学校で使われていない教室については「余裕教室」という呼び方をしています。この余裕教室の使い方について、1つの例として学童という例を頂きましたが、そういった別の目的で使う場合には、どうしても仕切りや区分けが必要となってしまう状況です。このため、他の目的で使うためには、工事や改修が必要になるものと考えています。</p>
都市整備部長	<p>台風15号や19号の際には皆様にご心配おかけしたことと思います。先ほど座長からもありました通り、河川は国もしくは県の管理になっていますので、市では、県に働きかけを行うということをして現在行っているところです。一つの案として、例えば24ページ(33)の都市居住環境の向上のところにもこのような観点を入れるということはあると思いますので、検討したいと思えます。</p>
委員	<p>先日のワークショップでも、幼児教育の充実について意見として言ったのですが、ここには親の学習や放課後支援事業など小学生以上の子どもに対する支援はあるのですが、幼児教育の部分がないと思います。福祉関係のことでは色々と書いてありますが、幼児教育ということに関しては載っていません。具体的に幼児教</p>



	<p>育の充実とは何かと言うと、幼稚園教諭・保育士の質の向上だと思えます。それを向上させるために、例えば、本庄市が主で先生たちの研修を行うなどを検討してもらいたいと思えます。</p> <p>今、保育士不足と言われていますが、本庄市の各園でも先生を採用するのは本当に大変な状況です。私立幼稚園連合会で合同就職説明会をするのですが、さいたま市などで開催されるので、そこに参加してもこちらには結局来てくれません。熊谷辺りや群馬の学生でも都内に行ってしまう状況です。本庄市でも制度はありますが、住宅補助も都内の方がより充実しています。</p> <p>また、さいたま市では、ECEQ(イーセック)という公開保育を活用した保育の質の向上を市主催で行っています。これも研修の一つなのですが、そういったことをもっと充実させ、先生たちの質の向上をさせることによって、幼児教育全体の質向上につながると思うので、そういうところについても、援助や補助をして頂けたらと思えます。</p>
座長	<p>幼稚園教諭・保育士に対する研修等について市で実施することはできないかというご意見ですが、いかがでしょうか。</p>
保健部長	<p>幼児教育の充実に向けての研修についてご提案を頂きました。確かに、幼児教育についてはこの戦略の中には直接盛り込まれていません。お話頂いたように色々な補助は本庄市でもあるけれども、まだまだ十分ではないということです。幼稚園・保育園部分を合わせて、どのような形で研修等を含めて取り組んでいくことができるか検討させて頂きたいと思えます。</p>
委員	<p>私の立場からこの総合戦略を見させて頂いた中で、私も教育と言う言葉がほとんど入っていないことに疑問を感じました。教育について様々な部分を見ていると、子どもたちだけでなく親に対しても底辺の底上げを行っているようですが、より高いレベルでの教育の向上を図っていく必要があると思えます。本庄市の教育レベルを上げることは、当然、基本戦略の「人材」にもつながるものだと思います。さいたま市では、浦和高校に入れるために、公立の常盤中学校の学校区にわざわざ引っ越して、そこに行く家庭もあるようです。そういったものを真似するように、本庄に行けばそれなりの教育を受けられて、より良い高校、良い大学に行けるという、学校レベルの向上を考えて頂ければ有難いと思えます。当然、それに関しては地域の貢献にもなり、定住という部分にも関わってくると思えますので、そういうことも入れて頂ければありがたいと思えました。</p> <p>また、英語検定料補助については、英検3級相当以上の英語力</p>

	<p>を持っている生徒の割合を50%から60%へ上げるという目標になっています。補助があれば受ける生徒は増えるだろうけれども、強制ではないので、英語が得意ではないから受けないとすれば、この補助事業は何の意味も持たなくなってしまう。当然、これは教育に関わってくるものです。小中学校で英語をしっかり教え、英語を楽しいものだ、英語を勉強すれば世界はもっと明るくなるのだという希望を持つことができれば、子どもたちは英検を受けると思います。しかし、ただ英語検定料を補助するからどうぞ皆さん受けてくださいということでは、子どもたちも親も受ける気にはならないと思います。目標として、これを60%に上げるということであれば、もう少し方法も考えた方が良いでしょう。</p> <p>最後に、空き教室の活用についてですが、実は私は4年前にもまち・ひと・しごとのワークショップに参加させて頂いたことがあります。その際に、校長会の西小学校の校長先生が空いている教室を使ったらどうかという提案をしているはず。そこから話が進んでいない状況なのでもったいないと思います。私も西小学校のPTAをやっている、教室が空いていることは分かっています。行政側の使い方一つだと思うので、是非、取れ入れて頂きたいと思います。</p>
座長	<p>教育関係でのご指摘、ご提案でございましたが、市の方でお答えできるようでしたらお願いします。</p>
教育委員会事務局長	<p>子どもたちの学力向上については、当然、学校の方でも取り組んでいるところです。教師の質の向上も含めて、子どもたちに分かりやすい授業などを実施しているところです。それが、この総合戦略の中に入っていないというご指摘については検討したいと思います。</p> <p>また、英語検定料補助については、お話の通り、受ける人がいなければ意味がありません。学校でも、子どもたちに英語を楽しく学んでもらいたいということで、ALTを活用するなどして取り組んでいるところでございます。英語検定料補助については、今年度から始まった事業です。英検は年に3回で、今年の一回目は既に終わっており、中学3年生91人が受験をしたところです。</p> <p>余裕教室についてですが、今の状況のままでは使用が難しいと思っております。学校での児童のプライバシーの問題等もあり、そういった観点からも何らかの方策が必要だと思いますので、そういったご意見があるということで検討はしていきたいと思っております。</p>

委員	<p>企業誘致の推進ということですが、工業用地のないところに企業は来ません。工業用地をつくる気があるのかどうか、その辺りが問われています。私は3年間、県に対して「本庄に企業を持ってきて下さい」という話をずっとしてきました。しかし、県からは「本庄市からそういった話は出ていません。」と言われ、終わってしまいました。場所的にも良く、新幹線駅もあり、用地もある。1反100万円程度で買えますから、是非、企業に来てもらえる工業用地をつくってほしいと思います。</p> <p>また、既に誘致を行っている児玉周辺では水が出ません。そういったことも考えて、誘致の場所をつくらないといけないと思います。企業誘致を行うなら、水が出る場所に行く必要があります。</p> <p>また、ワークショップに参加した際にも話が出たのですが、自然が豊かで交通の便が良いので、県営の公園をつくって頂きたいと思います。この地域には県営の公園がありませんので、農業が体験できる、トレッキングができるなど、テーマを絞ったグリーンツーリズムを是非つくって頂きたいと思います。これは、農業の振興にも関係してくると思います。</p>
経済環境部長	<p>企業誘致についてですが、前回の懇談会の際にも、委員から「県との繋がりが無い」とのお話を頂きました。現状、県とは調整をしております、確かに具体的な工業用地というところまでは至っておりませんが、県との連携は今後とも図っていかねばと考えているところでございます。現状は本庄市に誘致できる工業用地がない状況ですので、現在は民有地と企業のマッチングを中心に行っております。確かに、これだけでは企業を誘致するには少ないですが、計画の中でも新たな産業拠点の整備について検討していくという文言を入れさせて頂いております。</p> <p>現状、大規模な工業用地の整備には農業基盤整備が実施済みの農業用地が必要な状況です。このことから、産業拠点の整備については、農業団体との関わりもあることから、農業振興と企業誘致の双方の観点から今後検討を進めていきたいと思っております。</p>
委員	<p>既存の工業用地に指定しているところがあるかと思えます。その中で、農家が売りたいくても道路がなくて売れない人が結構います。私が買った土地の近くにも、まだ土地がたくさんあり、買ってくれないかと言われますが、買いませんでした。道路がないから売りたいくても売れない、何も作れないという土地が本庄市には残っています。そういう状況を放っておいて、それで良いのでしょうか。市は工業に対して何の援助もないという状況では、企業は来ません。その辺りをもう少し考えてもらいたいと思います。</p>

委員	<p>13～14ページの関係ですが、インターチェンジ周辺の網を外す（農業振興地域から除外する）ことが大事なことだと思います。先程の話では、あまり前向きではないという印象でした。まずインター周辺の網を外して、市街化調整区域、農業振興地域、農用地区域という区分を外さなければ、何をしようとしても何もなりません。何か、その部分についての文言を入れて頂ければという思いでございます。</p> <p>それと同時に、本庄地域と児玉地域の間について、家を繋げるという意味でも、この間が開いては良くないと思います。このためには、インターチェンジ周辺から繋げないといけませんので、インターチェンジ周辺から網を外す。全国どこへ行っても、スマートインターをつくって、そこを工業地や商業地にしようという時代に、元々ある本庄児玉インターチェンジ周辺に網が被っていて何もできないということが、この地域の発展を阻害している第一要因であると思っています。やはり、網を外すということを文言の中に入れてもらいたいと思います。</p> <p>続いて、14ページの空き店舗プロジェクトについてです。児玉の場合ですと、空き店舗になっても、実際はまだそこに住んでいることが多いため、そこを貸店舗にするためには入口などを別にしないとけません。NEXT商店街プロジェクトの中で、そういったことも検討して頂ければという思いです。</p> <p>15ページの（6）出会いの創出についてですが、出会いの創出を更につくって頂きたいという思いでございます。それと同時に、昔は世話人がいて、色々とサポートしてくれました。しかし、今はそういった方はいません。しかし、中には世話好きな人もいますので、そのようなことについても、ここに入れることはできないかなと思いました。</p> <p>23ページ（28）交通安全・防犯活動の推進についてです。これまではプライバシーの関係があるので、防犯カメラは反対だという意見が多かったのですが、今は逆であると思います。さらに安全・安心のまちということで、防犯カメラの設置という計画を立てて頂ければと思います。</p> <p>それともう一点、議論だけではなく、例えば「防犯のまち本庄」ということを推し進める、あるいは、小中学生が英語で話せるようになるなど、特区の活用を検討しても良いのではないのでしょうか。先程の工業用地の件についても、もう一步踏み込んだことをやらなければ先に進みませんので、是非、宜しくお願いします。</p>
座長	6点ほどご意見を頂きました。①インターチェンジ周辺の網を

	<p>外す（農業振興地域から除外すること）、②本庄地域と児玉地域の市街地の連続性に関すること、③空き店舗ゼロプロジェクトに関すること、④出会いの創出に関すること、⑤防犯カメラに関すること、⑥特区申請に関すること、こういったご意見が出ています。</p>
経済環境部長	<p>農業振興地域の除外につきましては、農業振興地域整備計画に基づいて行っている状況でございます。委員ご指摘の通り、様々な状況で網を外し、工業的な立地ができるようにするということは必要だと思っておりますが、現在、神流川の灌漑排水事業が行われております。これは約7年前に行われましたが、本庄地域のほとんどの農地につきまして、その受益地となっていることから、現状では網を外すということは難しい状況にあります。ただ、来年度いっぱい8年経過しますので、8年が経過した段階で受益地から外れることは見えている状況です。それも含めて、現在ある整備計画の中で今後のあり方を検討していき、その中の一つの案としてインターチェンジ周辺についても考えられるのではないかと思います。現状では縛りがある中で、調整する必要がありますので、ご理解頂ければと思います。</p> <p>また、空き店舗プロジェクトの関係ですが、これは、現在、県の支援を受けまして、地域を定めて行っている事業です。本庄駅北口の駅通りと中山道、銀座通りを囲んだ地域で、NEXTプロジェクトという事業を県と一緒にしているところでございます。その中で、地域の方々にご協力を頂きながら、イベント等を地域の方に自ら考えて頂いて、自ら実践をして頂くようなプロジェクトでございます。これも引き続き行っていきたいと考えています。これは、ある一定の地域が終われば、次の地域ということも検討することが必要であると思っておりますので、県の支援からは離れてしまいますが、市の単独事業として、今後も進めていく必要があると考えています。</p> <p>改修の補助金についてですが、空き店舗を利用して新たな店舗を出したいという方がいる場合、所有者の場合は不可ですが、店舗を借りて営業をする方に対しては50万円まで改修費の補助を出すという制度があります。貸す方に対しての補助はありませんが、空き店舗を利用して新たな店舗を開きたいという場合には、地域の指定はありますが、そういった制度を利用して頂けることと思っております。</p>
企画財政部長	<p>15ページ(6) 出会いの創出について説明させていただきます。ここにも記載しているのですが「さいたま出会いサポートセンタ</p>

	<p>一」が、昨年8月からスタートしております。これは、社会福祉協議会に事務所を設けて行っているものです。ここでは、AIを活用したシステムによってマッチングを行っているものと、世話人という言葉ではありませんが、相談員が様々な相談を受けているものがあります。最近、全県下で様々な情報が出てきていて、登録者も増えてきていることから、今後、ますます期待していくことができると思っています。この辺りについてPRをしていければと考えています。</p>
市民生活部長	<p>続いて、防犯カメラについて説明させていただきます。ご指摘の通り、防犯カメラについては、犯罪抑止等の観点から重要視されてきています。既に相当数の防犯カメラを設置しておりまして、駅など犯罪の発生しやすいところに設置をしている状況でございます。こちらは個人情報の問題、カメラの維持管理の問題等、様々な問題もありますので、そういったものを整理し、警察と協議をしながら、有効な場所へ設置していけたらと考えております。</p>
企画財政部長	<p>最後に、英語を話せる人を増やすなど国の特区申請を行ってはどうかということについてですが、特区申請につきましては様々な自治体での取組がありますが、最近は少し低調になってきている状況であると思えます。この点につきましても、委員からご提案を頂きましたので、また改めて研究し直して、検討をしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>聞いた話では、国は特区のお金が余っている状況ということらしいので、何か考えてもらえればと思います。</p> <p>また、出会いサポートセンターについては、とにかく登録しないことには始まりません。未婚者の4分の1でも10分の1でも、登録してもらおう工夫も考えながら検討して頂ければと思います。</p>
委員	<p>人口減少、少子高齢化を克服するための戦略ということで、決定打がなかなかない中で、息の長い様々なことをやっていく必要があると思っています。各委員の話についても、その通りだと思ってお伺いしていたところです。各事業も、それぞれの目標に向かって様々な事業がぶら下がっていますが、これを全て全力でやっていくことは難しいので、何が効果的なのかを見極めながらやっていくことが必要だと感じました。</p> <p>本庄市特有で、一番の強みだと思っていることは、市内に高校がたくさんあることです。人口8万人弱のところ、6つの高校があり、多分生徒も3千～4千人位通われていると思えます。この方々をうまく、定着とまでは行かないまでも、本庄に魅力、愛</p>

	<p>着を感じてもらおうことが、本庄に戻ってきてもうきっかけになるのではないかと考えております。市としては、高校生に政策を打ち出していくということは、なかなか難しい部分だとは思いますが、ただ、本庄市は六高祭といって、六つの高校が合同で文化祭を行っていますので、こういうことをきっかけに、例えば、地域のことについて考えてもらう、あるいは地域課題を一緒に解決してもらおうなど、そういったことに取り組んでいくと良いと思います。</p> <p>例えば、関係人口の創出・拡大のところに、この合同文化祭が魅力発信のツールとして載っていますが、例えば、市民協働推進という訳ではないですが、世代間交流や地域の方と交流してもらおう機会があれば、そういったことにも繋がっていくと考えます。さらに、郷土愛の醸成、愛着度の向上などにも繋がっていくと思います。小・中学生の子どもたちは地域との繋がりがあると思いますが、高校生になると忙しく、また、地域を離れるということもあり、少しそういった部分が薄くなっていくので、そこを少し補う、あるいはそこに働きかけることで、変わるきっかけになるのではないかと考えました。</p>
座長	<p>市内に高校が六校あるとは、勉強不足で知りませんでした。</p> <p>福井県に鯖江市というメガネで有名なまちがあるのですが、そこが今色々なことを打ち出しています。その中で、「JK（女子高生）課」というものを日本で初めて作りました。この中で、女子高生に色々と提案してもらって市の活性化を図るということ、かなり前からやっていて、次々に様々な提案がなされ、実現しているものもかなり出てきています。JK課は滋賀県の湖南市など全国的に飛び火しています。高校生は忙しいようですが、時間を何か有効に使いたいと思っている子は結構いるようです。高校が六校もあるのですから、是非、本庄市も色々な形でこういったことを活用できると良いのではないかと考えました。</p>
委員	<p>私からは二点、企業誘致と移住・定住についてお聞きします。本庄市が更に発展していくためには、そこに働く人、住む人を増やしていかなければいけないと思っています。企業誘致として、是非、会社や工場を増やして頂きたいと思っています。基準値で、平成18年から令和元年の13年間で31の企業を誘致したことが出ています。目標としてはこれから3年間で8件の企業誘致をするということですが、もう少し野心的に増やす目標を立てても良いのではないかと考えます。</p> <p>また、移住・定住のための住宅支援ということで、我々市内の</p>

	金融機関もPRしていかなくてはいけないのかなと思っており、本庄市と一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。
座長	もっと目標を野心的に、ちょっと控えめ過ぎるのではないかというご意見でしたがいかがでしょうか。
経済環境部長	令和元年度からですので、4年間で8件、1年間で2件程度の誘致を目標にしています。企業誘致につきましては、ある程度時間がかかること、企業とのマッチングで企業の考えもあることから、こちらも企業誘致を行っているところですが、現計画の中でもゼロという数字が続いてしまっています。そのような中、昨年度辺りから成果がありまして、昨年度については5件程度、今年度も3件程度の企業が用地買収を行うような形で話が進んでいます。現状を考えると、当然高く目標を設定することも必要かと思いますが、実質3年間の計画ですので、この数字にさせて頂いたところでございます。
委員	早稲田大学の施設、研究棟で空いているところはかなりあって、それがそのまま放置され、大きな建物の向こう側にA棟・B棟があると思います。その辺りの早稲田大学との連携を積極的に本庄市の計画の中に入れて頂きたいと思います。新幹線駅ができた当時は、大学院大学も二つでき、大変熱があつて、映画のまちにしようとか、私たちもその当時は夢がいっぱいありました。早稲田大学との関係について、ここにすぐ入れろということではないのですが、やっぱりもったいないと思いますので、そこを活かしていくような知恵を入れて頂きたいと思います。
企画財政部長	早稲田大学との関係につきましては、こども大学ほんじょう、市民総合大学、職員の研修等で早稲田大学の先生方との関わりを持たせて頂いています。それから、先ほどありました本庄早稲田駅南口のところに広がる早稲田大学の施設についてですが、ご承知の通り、新年度になります。早稲田大学と共同で施設を利用し、ミュージアムという形で活用の準備を進めています。その他の施設に関してですが、一つは企業との関係で使っているベンチャー棟というものがあり、その他は早稲田大学の学生が使っています。あくまでもこれは早稲田大学の施設でございますので、本庄市の方で使わせて頂きたいということは、なかなか申し上げづらいところですが、ただ、早稲田大学の先生方、また、本庄高等学院につきましても、いろいろな面で協力して頂いています。早稲田大学と良好な関係を取りながら、本庄市としても、早稲田大学との基本協定に基づいた関係をしっかりと繋げていきたいと思



	<p>ます。早稲田大学の「知」の部分についても、なるべく本庄市に与えて頂けるような環境づくりについては、我々職員も早稲田大学の方に協力を求めながら提携していければと思っております。</p>
委員	<p>情報系の大学院大学ができましたが、これは非常に元気な分野であると思います。これが本部の方に戻ってしまうことはとても残念なことです。建物は早稲田大学のものなのですが、早稲田大学、稲継先生にも是非ご協力頂いて、本庄市ももっと一生懸命働きかけて頂きたいと思っています。</p> <p>今、ベンチャー企業がとてもはやっています。中国では国費を入れて、若い人がどんどん会社を創っています。起業したい人が、元気な研究開発をして地域のためにも頑張ってもらえるように、そういった拠点として使えるように、本庄市も良い関係を活かして、是非その熱を早稲田大学へ伝えて頂ければと思います。</p>
座長	<p>建物の一部は、セミナーハウスとして学生が合宿等に使っております。インキュベーター（起業支援）をつくって、色々なスタートアップ企業に入ってもらえるようなもの、これは地理的なことはあまり問われないと思います。先程申し上げた鯖江市でも、多くのスタートアップ企業が集まっているところです。徳島県上勝町などの地方部でも、スタートアップ企業が集まっています。そういったことを市としてははじめるといことをしっかり表明してもらえれば、大学側も建物が空いているから使ってくださいという話になると思います。これは、大学側と言うよりも、市としてインキュベーターをここで創る、についてはこの施設が空いているから貸してくれとなれば、大学側も貸し出すということになると思います。それは、市としてもそういった腹を固めてもらえたらと思います。その際には、私も協力させていただきます。</p> <p>では最後に、事務局から補足をお願いします。</p>
都市整備部長	<p>先ほどお答えできなかった空き家対策等の推進の基準値と目標値について説明させていただきます。当初の前回目標値は28件で、これは平成31年の目標値として設定させて頂いたものでございます。今回は令和4年度までということで、3年間ありますので、その28件から毎年10件ずつの空き家除却を進めていこうというもので、58件という目標になっています。ちなみに、平成27年から平成31年の間では、おおよそ年4～5件程度だったものを倍増ということで、今回このような目標にさせて頂きました。</p>
座長	<p>以上で議事を終了させて頂き、座長の座を降ろさせていただきます。議事進行へのご協力と熱心なご意見に感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>

6. 閉会	
事務局	<p>以上をもちまして、本日の議事のすべてを終了致しました。長時間にわたり活発なご意見を頂き、誠にありがとうございました。</p> <p>また、今後のスケジュールにつきましては、12月にパブリックコメントを実施し、市民の皆様から意見の集約を図る予定でございます。また、次回の創生懇談会は2月の開催を予定しております。今回頂きましたご意見等、また、パブリックコメントの結果を踏まえて、次期総合戦略の最終案を提示させて頂く予定です。よろしくお願い致します。</p> <p>以上をもちまして、第2回本庄市まち・ひと・しごと創生懇談会を閉会致します。</p>